

# レディーミクストコンクリート配合報告書

石黒建設株式会社 殿

工事名 東亜システム（株）社屋新築工事

平成 16 年 5 月 18 日 報告

日本工業規格表示認定工場

認定番号 47203



 **名東生コン株式会社本社工場**

TEL (052) 771-1201 (代表)

FAX (052) 771-9775

施工者：石黒建設株式会社 殿

工事名：東亜システム（株）社屋新築工事

配合内容一覧表

04/05/18 報告 No. 041013

名東生コン株式会社 本社工場

配合 (呼び方)	W/C	S/a	配合表			A/D	混和剤製品名 混和材製品名	混和剤の種類 混和材の種類	打設場所 備考	設計基準強度	温度補正值	JIS 区分
			C	W	S							
1 普通 No. 0825 16-15-25-N	71.5%	47.0%	241	172	847	975	2.410 7p-リッドSV	A E減水剤標準形(1種)捨てコン	捨てコン	Fc16	-	JIS 外品
2 普通 No. 0915 30-15-25-N	49.0%	42.8%	341	167	743	1012	3.410 7p-リッドSV	A E減水剤標準形(1種)基礎コン	基礎コン	Fc27+ΔF3	T=0	JIS 該当品
3 普通 No. 0856 21-18-25-N	61.5%	48.0%	285	175	845	934	2.850 7p-リッドSV	A E減水剤標準形(1種)土間コン	土間コン	Fc21	T=0	JIS 該当品
4 普通 No. 0916 30-18-25-N	49.0%	45.1%	356	174	768	955	3.560 7p-リッドSV	A E減水剤標準形(1種)躯体コン	躯体コン	Fc27+ΔF3	T=0	JIS 該当品

【添付書類】

- (1) 配合報告書・配合計算書
- (4) 骨材試験成績表
- (7) 骨材のアルカリシリカ反応性試験成績書
- (10) 上場概要

- (2) 気温によるコンクリート用化学剤和剤の練混ぜに用いる水の試験成績書
- (5) コンクリート用化学剤和剤の練混ぜに用いる水の試験成績書
- (8) コンクリート用化学剤和剤の練混ぜに用いる水の試験成績書
- (11) 登録証 コンクリート主任技士

- (3) セメント試験成績表
- (6) 日本工業規格表示認定書
- (9) 生コン車検入出経路図
- (12) 品質管理監査合格証

レディーミクストコンクリート配合報告書

No. 04/0130825

平成 16 年 5 月 18 日

石黒建設株式会社 殿

日本工業規格表示認定工場 No. 472032

名東生コン株式会社 本社工場

配合計画者名 河合 逸希

工 事 名 称 東亜システム (株) 社屋新築工事

所 在 地

納 入 予 定 時 期 H16.05/20 - H16.10/30

本配合の適用期間 H16.05/20 - H16.10/30

コンクリートの打込箇所 捨てコン

配 合 の 設 計 条 件

呼 び 方	コンクリートの種類による記号	呼 び 強 度	ス ラ ン プ		粗骨材の最大寸法による記号	セメントの種類による記号
	普 通	16	15	25	N	
指定事項(14)	軽量コンクリートの単位容積質量	-	kg/m <sup>3</sup>	空 気 量	-	%
	コンクリートの温度	-	℃	混 和 材 料 の 種 類	-	
	呼び強度を保証する材齢	-	日	7割骨材反応抑制対策の方法 (15)	A	
	水セメント比の上限値	-	%	単位セメント量の下限值又は上限値	-	kg/m <sup>3</sup>
	単位水量の上限値	-	kg/m <sup>3</sup>	塩 化 物 含 有 量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下	
	流動化後のスランプ増大量	-	cm			

使 用 材 料 (16)

セメント 生産者名	太平洋セメント (株)	密度(g/cm <sup>3</sup> )	3.16	Na2Ocq (%) (17)	0.60				
混和材 製品名	-	種 類	-	密度(g/cm <sup>3</sup> )	-				
骨 材	No	種 類	産地又は品名	ASR (18) による	粒の大きさ	粗粒率又は	密 度 (g/cm <sup>3</sup> )		吸 水 率 (%)
				区分	の範囲(19)	実積率(20)	絶 乾	表 乾	
細 骨 材	①	砂	瀬戸	A モルタル法	5mm以下	2.80	2.52	2.55	1.48
	②	-	-	-	-	-	-	-	-
	③	-	-	-	-	-	-	-	-
粗 骨 材	①	砂利	瀬戸	A モルタル法	25mm~5mm	62.5	2.57	2.60	1.23
	②	-	-	-	-	-	-	-	-
	③	-	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名	フローリックSV	種 類	AE減水剤標準形(1種)		細 骨 材 の 塩 化 物 量	0.001%		
混和剤②	製品名	-	種 類	-			-		

水 の 区 分 上水道水以外の水(地下水) : 回収水 (上澄水)

配 合 表 (kg/m<sup>3</sup>) (21)

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
241	-	172	847	-	-	975	-	-	2.410	-
水セメント比		71.5%	水結合材比 (22)			細骨材率			47.0%	
備 考 細骨材混合率(砂=100%) 粗骨材混合率(砂利=100%)								JIS 外 品		

注 (14) 呼び方欄以外に特に指定された場合に記入する。  
 (15) 附属書6表1に示す記号で記入する。ただし、附属書1の区分Aの骨材を用いる場合は、記号Aを同欄に記入する。  
 (16) 配合設計に用いた材料について記入する。  
 (17) ポルトランドセメントを使用した場合にだけ記入する。  
 (18) アルカリシリカ反応(ASR)性による区分及び判定に用いた試験方法を記入する。  
 (19) 細骨材に対しては、砕砂又はスラグ骨材では粒の大きさの範囲を、砂利又は人工軽量骨材では最大寸法を記入する。  
 粗骨材に対しては、砕石又はスラグ骨材では粒の大きさの範囲を、砂利では粗骨材の大きさ、人工軽量骨材では骨材の寸法を記入する。  
 (20) 細骨材に対しては、粗粒率の値を、粗骨材に対しては実積率の値を記入する。  
 (21) 人工軽量骨材の場合は絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。  
 (22) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

# 配合計算書

名東生コン株式会社 本社工場

No.04/0130825

平成 16 年 5 月 18 日

配合計画者名

河合 逸希

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ	粗骨材の最大寸法による記号	セメントの種類による記号
	普通	16	15	25	N
指	軽量コンクリートの単位容積質量	—	kg/m <sup>3</sup> 空気量	—	%
定	コンクリートの温度	—	℃ 混和材料の種類	—	
事	呼び強度を保証する材齢	—	日 7/粗骨材反応抑制対策の方法	—	A
項	水セメント比の上限値	—	% 単位セメント量の下限值又は上限値	—	kg/m <sup>3</sup>
	単位水量の上限値	—	kg/m <sup>3</sup> 塩化物含有量	0.30	kg/m <sup>3</sup> 以下
	流動化後のスランプ増大量	—	cm		

呼び強度 (SL)	JIS A 5308による呼び強度の値	SL = 16	
標準偏差(σ)当工場基礎資料より	$\sigma = 1.96 \text{ N/mm}^2$	変動係数(V)	V = 9.4 %
配合強度 (m)	(1)m=0.85SL+3σ (2)m=0.85SL/(1-3V/100) より (3)m=SL+2.5σ (4)m=SL/(1-2.5V/100)	m = 20.9 N/mm <sup>2</sup>	
配水セメント比 (w/c)	当工場算定式より $m = -14.4 + 25.2 \times C/W$	W/C = 71.5	%
単位水量 (W)	当工場基礎資料より	W = 172	kg/m <sup>3</sup>
合 単位セメント量 (C)	W/(w/c)	C = 241	kg/m <sup>3</sup>
セメント容積 (Vc)	C/密度	Vc = 76	L/m <sup>3</sup>
の 粗骨材容積	当工場基礎資料より	Vg = 375	L/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	Vg × 密度 = 375 × 2.60	G = 975	kg/m <sup>3</sup>
基 粗骨材の質量 (G1)	G × 比率 975 × 100 / 100	G1 = 975	kg/m <sup>3</sup>
(質量比) (G2)		G2 =	kg/m <sup>3</sup>
本 (G3)		G3 =	kg/m <sup>3</sup>
空 気 量 (A)	A/100 × 1000L	A = 45	L/m <sup>3</sup>
及 細骨材の容積 (Vs)	1000 - (W + Vc + Vg + A)	Vs = 332	L/m <sup>3</sup>
単位細骨材量 (S)	Vs × 密度 = 332 × 2.55	S = 847	kg/m <sup>3</sup>
び 細骨材の質量 (S1)	S × 比率 847 × 100 / 100	S1 = 847	kg/m <sup>3</sup>
(質量比) (S2)		S2 =	kg/m <sup>3</sup>
計 (S3)		S3 =	kg/m <sup>3</sup>
細骨材率 (S/a)	Vs / (Vs + Vg) × 100	S/a = 47.0	%
算 単位混和剤量 (AD)	セメント質量の 1.00%	AD = 2.410	kg/m <sup>3</sup>

配合表	セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
	241	—	172	847	—	—	975	—	—	2.410	—
	水セメント比		71.5%	水結合材比		—	細骨材率		47.0%		
備考	細骨材混合率(砂=100%) 粗骨材混合率(砂利=100%)						JIS 外 品				

平成 16 年 5 月 18 日

石黒建設株式会社 殿

日本工業規格表示認定工場 No. 472032

名東生コン株式会社 本社工場

配合計画者名 河合 逸希

工 事 名 称 東亜システム (株) 社屋新築工事

所 在 地 [REDACTED]

納 入 予 定 時 期 H16.05/20 - H16.10/30

本配合の適用期間 (T=0)4/13-10/9(営繕協会及びJASS5:普通セメント)

コンクリートの打込箇所 基礎コン

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ	粗骨材の最大寸法による記号	セメントの種類による記号	
	普通	30	15	25	N	
指定事項(14)	軽量コンクリートの単位容積質量	—	kg/m <sup>3</sup> 空	気	量	— %
	コンクリートの温度	—	℃	混	和	材
	呼び強度を保証する材齢	—	日	アルカリ骨材反応抑制対策の方法 (15)		A
	水セメント比の上限値	—	%	単位セメント量の下限值又は上限値		— kg/m <sup>3</sup>
	単位水量の上限値	—	kg/m <sup>3</sup>	塩	化	物
	流動化後のスランブ増大量	—	cm	含有量		0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下

使 用 材 料 (16)

セメント	生産者名	太平洋セメント (株)	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	3.16	Na <sub>2</sub> Oeq (%) (17)	0.60				
混和材	製品名	—	種	類	—	密度 (g/cm <sup>3</sup> )				
骨材	No	種類	産地又は品名	ASR (18) による区分	粒の大きさの範囲 (19)	粗粒率又は実積率 (20)	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	吸水率 (%)		
細骨材	① 砂	瀬戸	—	A モルタル法	5mm以下	2.80	2.52	2.55	1.18	
骨材	② —	—	—	—	—	—	—	—	—	
材	③ —	—	—	—	—	—	—	—	—	
粗骨材	① 砂利	瀬戸	—	A モルタル法	25mm~5mm	62.5	2.57	2.60	1.23	
骨材	② —	—	—	—	—	—	—	—	—	
材	③ —	—	—	—	—	—	—	—	—	
混和剤①	製品名	フローリックSV	種類	AE減水剤標準形(1種)	細骨材の塩化物量	0.001%				
混和剤②	製品名	—	種類	—	—	—				
水の区分		上水道水以外の水(地下水):回収水(上澄水)								

配 合 表 (kg/m<sup>3</sup>) (21)

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
341	—	167	743	—	—	1012	—	—	3.410	—
水セメント比		49.0%	水結合材比 (22)			—	細骨材率		42.8%	
備考 細骨材混合率(砂=100%) 粗骨材混合率(砂利=100%)									JIS 該当品	

注 (14) 呼び方欄以外に特に指定された場合に記入する。  
 (15) 附属書6表1に示す記号で記入する。ただし、附属書1の区分Aの骨材を用いる場合は、記号Aを同欄に記入する。  
 (16) 配合設計に用いた材料について記入する。  
 (17) ボルトランドセメントを使用した場合にだけ記入する。  
 (18) アルカリシリカ反応(ASR)性による区分及び判定に用いた試験方法を記入する。  
 (19) 細骨材に対しては、砕砂又はスラグ骨材では粒の大きさの範囲を、砂又は人工軽量骨材では最大寸法を記入する。粗骨材に対しては、砕砂又はスラグ骨材では粒の大きさの範囲を、砂利では粗骨材の大きさを、人工軽量骨材では骨材の寸法を記入する。  
 (20) 細骨材に対しては、粗粒率の値を、粗骨材に対しては実積率の値を記入する。  
 (21) 人工軽量骨材の場合は絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。  
 (22) 高炉スラグ微粉などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

# 配合計算書

名東生コン株式会社 本社工場

No. 04/0130915

平成 16 年 5 月 18 日

配合計画者名

河合 逸希

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング	粗骨材の最大寸法による記号	セメントの種類による記号						
	普通	30	15	25	N						
指	軽量コンクリートの単位容積質量	-	kg/m <sup>3</sup> 空	気	-						
定	コンクリートの温度	-	℃ 混	和	-						
事	呼び強度を保証する材齢	-	日 了	骨材反応抑制対策の方法	A						
項	水セメント比の上限値	-	%	単位セメント量の下限值又は上限値	-						
	単位水量の上限値	-	kg/m <sup>3</sup> 塩	化	0.30						
	流動化後のスラング増大量	-	cm	物 含 有 量	kg/m <sup>3</sup> 以下						
呼	呼び強度 (SL)	JIS A 5308による呼び強度の値			SL = 30						
標	標準偏差(σ)当工場基礎資料より	σ=2.80 N/mm <sup>2</sup> 変動係数(V)			V = 7.6 %						
配	配合強度 (m)	(1)m=0.85SL+3σ (2)m=0.85SL/(1-3V/100) より (3)m=SL+2.5σ (4)m=SL/(1-2.5V/100)			m = 37 N/mm <sup>2</sup>						
配	水セメント比 (w/c)	当工場算定式より m=-14.4+25.2×C/W			W/C= 49.0 %						
合	単位水量 (W)	当工場基礎資料より			W = 167 kg/m <sup>3</sup>						
合	単位セメント量 (C)	W/(w/c)			C = 341 kg/m <sup>3</sup>						
の	セメント容積 (Vc)	C/密度			Vc = 108 L/m <sup>3</sup>						
粗	骨材容積	当工場基礎資料より			Vg = 389 L/m <sup>3</sup>						
単	位粗骨材量	Vg×密度 = 389×2.60			G = 1012 kg/m <sup>3</sup>						
基	粗骨材の質量 (G1)	G×比率 1012×100/100			G1 = 1012 kg/m <sup>3</sup>						
	(質量比) (G2)				G2 = kg/m <sup>3</sup>						
本	(G3)				G3 = kg/m <sup>3</sup>						
空	気量 (A)	A/100×1000L			A = 45 L/m <sup>3</sup>						
及	細骨材の容積 (Vs)	1000-(W+Vc+Vg+A)			Vs = 291 L/m <sup>3</sup>						
単	位細骨材量 (S)	Vs×密度 = 291×2.55			S = 743 kg/m <sup>3</sup>						
び	細骨材の質量 (S1)	S×比率 743×100/100			S1 = 743 kg/m <sup>3</sup>						
	(質量比) (S2)				S2 = kg/m <sup>3</sup>						
計	(S3)				S3 = kg/m <sup>3</sup>						
細	骨材率 (S/a)	Vs/(Vs+Vg)×100			S/a= 42.8 %						
算	単位混和剤量 (AD)	セメント質量の 1.00%			AD = 3.410 kg/m <sup>3</sup>						
配	セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
合	341	-	167	743	-	-	1012	-	-	3.410	-
表	水セメント比	49.0%	水結合材比	-	細骨材率	42.8%					
備	考	細骨材混合率(砂=100%) 粗骨材混合率(砂利=100%)					JIS 該当品				

平成 16 年 5 月 18 日

石黒建設株式会社 殿

日本工業規格表示認定工場 No. 472032

名東生コン株式会社 本社工場

配合計画者名 河合 逸希

工事名称 東亜システム(株)社屋新築工事

所在地

納入予定時期 H16.05/20 - H16.10/30

本配合の適用期間 (T=0) 4/13-10/9(営繕協会及びJASS5:普通セメント)

コンクリートの打込箇所 土間コン

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ	粗骨材の最大寸法による記号	セメントの種類による記号
	普通	21	18	25	N
指定事項(14)	軽量コンクリートの単位容積質量	—	kg/m <sup>3</sup> 空気量	—	%
	コンクリートの温度	—	℃ 混和材料の種類	—	—
	呼び強度を保証する材齢	—	H アルカリ骨材反応抑制対策の方法 (15)	—	A
	水セメント比の上限値	—	% 単位セメント量の下限值又は上限値	—	kg/m <sup>3</sup>
	単位水量の上限値	—	kg/m <sup>3</sup> 塩化物含有量	—	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下
	流動化後のスランブ増大量	—	cm	—	—

使用材料 (16)

セメント	生産者名	太平洋セメント(株)	密度(g/cm <sup>3</sup> )	3.16	Na <sub>2</sub> Oeq (%) (17)	0.60	
混和材	製品名	—	種類	—	密度(g/cm <sup>3</sup> )	—	
骨材	No	種類	産地又は品名	ASR (18) による粒の大きさの範囲 (19)	粗粒率又は実積率 (20)	密度(g/cm <sup>3</sup> ) 絶乾 表乾	吸水率 (%)
細骨材	①	砂	瀬戸	A モルタル法 5mm以下	2.80	2.52 2.55	1.48
	②	—	—	—	—	—	—
	③	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砂利	瀬戸	A モルタル法 25mm~5mm	62.5	2.57 2.60	1.23
	②	—	—	—	—	—	—
	③	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	フローリックスV	種類	AE減水剤標準形(1種)	細骨材の塩化物量	0.001%	—
混和剤②	製品名	—	種類	—	—	—	—

水の区分 上水道水以外の水(地下水): 回収水(上澄水)

配合表 (kg/m<sup>3</sup>) (21)

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
285	—	175	845	—	—	934	—	—	2.850	—
水セメント比	61.5%		水結合材比 (22)			—			細骨材率	48.0%
備考	細骨材混合率(砂=100%) 粗骨材混合率(砂利=100%)						JIS 該当品			

注 (14) 呼び方欄以外に特に指定された場合に記入する。  
 (15) 附属書6表1に示す記号で記入する。ただし、附属書1の区分Aの骨材を用いる場合は、記号Aを同欄に記入する。  
 (16) 配合設計に用いた材料について記入する。  
 (17) ポルトランドセメントを使用した場合にだけ記入する。  
 (18) アルカリシリカ反応(ASR)性による区分及び判定に用いた試験方法を記入する。  
 (19) 細骨材に対しては、砕砂又はスラグ骨材では粒の大きさの範囲を、砂又は人工軽量骨材では最大寸法を記入する。粗骨材に対しては、砕石又はスラグ骨材では粒の大きさの範囲を、砂利では粗骨材の大きさを、人工軽量骨材では骨材の寸法を記入する。  
 (20) 細骨材に対しては、粗粒率の値を、粗骨材に対しては実積率の値を記入する。  
 (21) 人工軽量骨材の場合は絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。  
 (22) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

# 配合計算書

名東生コン株式会社 本社工場

No. 04/0130856	平成 16 年 5 月 18 日	配合計画者名	河合 逸希								
呼び方 コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 21	スランブ 18	粗骨材の最大寸法による記号 25 セメントの種類による記号 N								
指定事項	軽量コンクリートの単位容積質量 —	kg/m <sup>3</sup> 空気量 —	% —								
	コンクリートの温度 —	℃ 混和材料の種類 —	—								
	呼び強度を保証する材齢 —	日 7/割骨材反応抑制対策の方法 A	—								
	水セメント比の上限値 —	% 単位セメント量の下限值又は上限値 —	kg/m <sup>3</sup> —								
	単位水量の上限値 —	kg/m <sup>3</sup> 塩化物含有量 —	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下								
	流動化後のスランブ増大量 —	cm —	—								
呼び強度 (SL)	JIS A 5308による呼び強度の値		SL = 21								
標準偏差(σ)当工場基礎資料より	σ = 2.26 N/mm <sup>2</sup> 変動係数(V)		V = 8.5 %								
配合強度 (m)	(1)m=0.85SL+3σ (2)m=0.85SL/(1-3V/100) より (3)m=SL+2.5σ (4)m=SL/(1-2.5V/100)		m = 26.7 N/mm <sup>2</sup>								
配水セメント比 (w/c)	当工場算定式より m=-14.4+25.2×C/W		W/C= 61.5 %								
単位水量 (W)	当工場基礎資料より		W = 175 kg/m <sup>3</sup>								
合単位セメント量 (C)	W/(w/c)		C = 285 kg/m <sup>3</sup>								
のセメント容積 (Vc)	C/密度		Vc = 90 L/m <sup>3</sup>								
粗骨材容積	当工場基礎資料より		Vg = 359 L/m <sup>3</sup>								
単位粗骨材量	Vg×密度 = 359×2.60		G = 934 kg/m <sup>3</sup>								
基粗骨材の質量 (G1)	G×比率 934×100/100		G1 = 934 kg/m <sup>3</sup>								
(質量比) (G2)	—		G2 = kg/m <sup>3</sup>								
本 (G3)	—		G3 = kg/m <sup>3</sup>								
空気量 (A)	A/100×1000L		A = 45 L/m <sup>3</sup>								
及細骨材の容積 (Vs)	1000-(W+Vc+Vg+A)		Vs = 331 L/m <sup>3</sup>								
単位細骨材量 (S)	Vs×密度 = 331×2.55		S = 845 kg/m <sup>3</sup>								
び細骨材の質量 (S1)	S×比率 845×100/100		S1 = 845 kg/m <sup>3</sup>								
(質量比) (S2)	—		S2 = kg/m <sup>3</sup>								
計 (S3)	—		S3 = kg/m <sup>3</sup>								
細骨材率 (S/a)	Vs/(Vs+Vg)×100		S/a= 48.0 %								
算単位混和剤量 (AD)	セメント質量の 1.00%		AD = 2.850 kg/m <sup>3</sup>								
配合表	セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
	285	—	175	845	—	—	934	—	—	2.850	—
	水セメント比		61.5%	水結合材比		—	細骨材率		48.0%		
備考	細骨材混合率(砂=100%) 粗骨材混合率(砂利=100%)						JIS 該当品				



レディーミクストコンクリート配合報告書

No. 0440130916

平成 16 年 5 月 18 日

石黒建設株式会社 殿

日本工業規格表示認定工場 No. 472032

名東生コン株式会社 本社工場

配合計画者名 河合 逸希

工事名称 東亜システム(株)社屋新築工事

所在地

納入予定時期 H16.05/20 - H16.10/30

本配合の適用期間 (T=0)4/13-10/9(営繕協会及びJASS5:普通セメント)

コンクリートの打込箇所 躯体コン

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ	粗骨材の最大寸法による記号	セメントの種類による記号
	普通	30	18	25	N
指定事項(14)	軽量コンクリートの単位容積質量	—	kg/m <sup>3</sup> 空	気	量
	コンクリートの温度	—	℃	混	和 材 料 の 種 類
	呼び強度を保証する材齢	—	[1]	アルカリ骨材反応抑制対策の方法 (15)	A
	水セメント比の上限值	—	%	単位セメント量の下限值又は上限値	—
	単位水量の上限值	—	kg/m <sup>3</sup>	塩 化 物 含 有 量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下
	流動化後のスランブ増大量	—	cm		—

使用材料 (16)

セメント	生産者名	太平洋セメント(株)	密度(g/cm <sup>3</sup> )	3.16	Na2Oeq(%) (17)	0.60		
混和材	製品名	—	種類	—	密度(g/cm <sup>3</sup> )	—		
骨材	No	種類	産地又は品名	ASR <sup>(18)</sup> による区分	粒の大きさの範囲 <sup>(19)</sup>	粗粒率又は実積率 <sup>(20)</sup>	密度(g/cm <sup>3</sup> ) 絶乾 表乾	吸水率(%)
細骨材	①	砂	瀬戸	A モルタル法	5mm以下	2.80	2.52 2.55	1.48
骨材	②	—	—	—	—	—	—	—
材	③	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砂利	瀬戸	A モルタル法	25mm~5mm	62.5	2.57 2.60	1.23
骨材	②	—	—	—	—	—	—	—
材	③	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	フローリックSV	種類	AE減水剤標準形(1種)	細骨材の塩化物量	0.001%		
混和剤②	製品名	—	種類	—		—		
水	区分	上水道水以外の水(地下水):回収水(上澄水)						

配合表 (kg/m<sup>3</sup>) (21)

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
356	—	174	768	—	—	955	—	—	3.560	—
水セメント比		49.0%	水結合材比 <sup>(22)</sup>			—	細骨材率		45.1%	
備考 細骨材混合率(砂=100%) 粗骨材混合率(砂利=100%)									JIS 該当品	

注 (14) 呼び方欄以外に特に指定された場合に記入する。  
 (15) 附属書6表1に示す記号で記入する。ただし、附属書1の区分Aの骨材を用いる場合は、記号Aを同欄に記入する。  
 (16) 配合設計に用いた材料について記入する。  
 (17) ポルトランドセメントを使用した場合にだけ記入する。  
 (18) アルカリシリカ反応(ASR)性による区分及び判定に用いた試験方法を記入する。  
 (19) 細骨材に対しては、砕砂又はスラグ骨材では粒の大きさの範囲を、砂又は人工軽量骨材では最大寸法を記入する。粗骨材に対しては、砕石又はスラグ骨材では粒の大きさの範囲を、砂利では粗骨材の大きさを、人工軽量骨材では骨材の寸法を記入する。  
 (20) 細骨材に対しては、粗粒率の値を、粗骨材に対しては実積率の値を記入する。  
 (21) 人工軽量骨材の場合は絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥状態の質量で表す。  
 (22) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

# 配合計算書

名東生コン株式会社 本社工場

No. 0410130916

平成 16 年 5 月 18 日

配合計画者名

河合 逸希

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング	粗骨材の最大寸法による記号	セメントの種類による記号						
	普通	30	18	25	N						
指	軽量コンクリートの単位容積質量	—	kg/m <sup>3</sup>	空気量	— %						
定	コンクリートの温度	—	℃	混和材料の種類	—						
事	呼び強度を保証する材齢	—	日	アクリ骨材反応抑制対策の方法	A						
項	水セメント比の上限値	—	%	単位セメント量の下限值又は上限値	— kg/m <sup>3</sup>						
	単位水量の上限値	—	kg/m <sup>3</sup>	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下						
	流動化後のスラング増大量	—	cm								
配 合 の 基 本 及 び 計 算	呼び強度 (SL)	JIS A 5308による呼び強度の値			SL = 30						
	標準偏差(σ)当工場基礎資料より	σ = 2.80 N/mm <sup>2</sup>			変動係数(V)	V = 7.6 %					
	配合強度 (m)	(1)m=0.85SL+3σ (2)m=0.85SL/(1-3V/100) より (3)m=SL+2.5σ (4)m=SL/(1-2.5V/100)			m = 37 N/mm <sup>2</sup>						
	水セメント比 (w/c)	当工場算定式より m=14.4+25.2×C/W			W/C= 49.0 %						
	単位水量 (W)	当工場基礎資料より			W = 174 kg/m <sup>3</sup>						
	単位セメント量 (C)	W/(w/c)			C = 356 kg/m <sup>3</sup>						
	セメント容積 (Vc)	C/密度			Vc = 113 L/m <sup>3</sup>						
	粗骨材容積	当工場基礎資料より			Vg = 367 L/m <sup>3</sup>						
	単位粗骨材量	Vg×密度 = 367×2.60			G = 955 kg/m <sup>3</sup>						
	粗骨材の質量 (G1)	G×比率 955×100/100			G1 = 955 kg/m <sup>3</sup>						
	(質量比) (G2)				G2 = kg/m <sup>3</sup>						
	(G3)				G3 = kg/m <sup>3</sup>						
	空気量 (A)	A/100×1000L			A = 45 L/m <sup>3</sup>						
	細骨材の容積 (Vs)	1000-(W+Vc+Vg+A)			Vs = 301 L/m <sup>3</sup>						
	単位細骨材量 (S)	Vs×密度 = 301×2.55			S = 768 kg/m <sup>3</sup>						
細骨材の質量 (S1)	S×比率 768×100/100			S1 = 768 kg/m <sup>3</sup>							
(質量比) (S2)				S2 = kg/m <sup>3</sup>							
(S3)				S3 = kg/m <sup>3</sup>							
細骨材率 (S/a)	Vs/(Vs+Vg)×100			S/a= 45.1 %							
単位混和剤量 (AD)	セメント質量の 1.00%			AD = 3.560 kg/m <sup>3</sup>							
配合表	セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
	356	—	174	768	—	—	955	—	—	3.560	—
	水セメント比		49.0%	水結合材比		—	細骨材率		45.1%		
備考	細骨材混合率(砂=100%)			粗骨材混合率(砂利=100%)			JIS 該当品				

名古屋地区における「気温によるコンクリート温度の補正值と補正期間」

本表は、名古屋地方気象台の気温の日別平年値（統計1971年から2000年までの平均値）を用いてJASS 5（社団法人 日本建築学会建築工事標準仕様書 2003年—2月改訂版）の気温によるコンクリート強度補正值の予測平均気温の範囲の基づき求めたものである。

表1 気温によるコンクリート強度補正の適用期間（普通ポルトランドセメント）

コンクリート強度の 気温による補正值T S I 単位(N/mm <sup>2</sup> )	コンクリート打込みから28日 までの予想平均気温の範囲(°C)	適用期間
0	16以上	4/13 ~ 10/9
3	8以上~16未満	3/1 ~ 4/12, 10/10 ~ 11/21
6	3以上~8未満	11/22 ~ 2/29

表2 気温によるコンクリート強度補正の適用期間（早強ポルトランドセメント）

コンクリート強度の 気温による補正值T S I 単位(N/mm <sup>2</sup> )	コンクリート打込みから28日 までの予想平均気温の範囲(°C)	適用期間
0	15以上	4/7 ~ 10/15
3	5以上~15未満	2/4 ~ 4/6, 10/16 ~ 12/20
6	2以上~5未満	12/21 ~ 2/3

表3 気温によるコンクリート強度補正の適用期間（フライアッシュセメントB種）

コンクリート強度の 気温による補正值T S I 単位(N/mm <sup>2</sup> )	コンクリート打込みから28日 までの予想平均気温の範囲(°C)	適用期間
0	16以上	4/13 ~ 10/9
3	10以上~16未満	3/12 ~ 4/12, 10/10 ~ 11/10
6	5以上~10未満	2/4 ~ 3/11, 11/11 ~ 12/20

表4 気温によるコンクリート強度補正の適用期間（高炉セメントB種）<sup>(1)</sup>

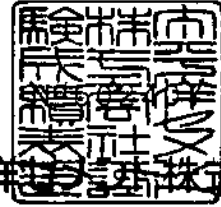
コンクリート強度の 気温による補正值T S I 単位(N/mm <sup>2</sup> )	コンクリート打込みから28日 までの予想平均気温の範囲(°C)	適用期間
0	16以上	4/13 ~ 10/9
3	10以上~16未満	3/12 ~ 4/12, 10/10 ~ 11/10
6	5以上~10未満 <sup>(1)</sup>	2/4 ~ 3/11, 11/11 ~ 12/20

注<sup>(1)</sup> セメントの種類による予想気温範囲はJASS 5 鉄筋コンクリート（解説）—5節—調合に「フライアッシュ」A種は普通ポルトランドセメントと同じでよく、高炉セメントA種は、高炉スラグ分量が少ない場合普通ポルトランドと同じで良いが高炉スラグ分量が多い場合はフライアッシュセメントB種と同じとする。また高炉セメントB種で高炉スラグ分量が少ない場合（45%以下）は、フライアッシュセメントB種と同じで良いが高炉スラグ分量が45%を越える場合ここで示した値を使うのがよい」と記載されている事から定めたものである。

なお、高炉セメントB種は、成績表の高炉スラグ分量の値が40%~45%である事からフライアッシュB種と同じ予想平均気温の範囲とした。

注<sup>(2)</sup> 当地区におけるコンクリート打込みから材齢28日での最小値は、4.00°CとなりフライアッシュB種及び高炉B種の場合での予想平均気温の5°C~10°C未満を下回る12/21~2/3の間の補正方法については、材齢を28日から42日に変更するなどの対処は必要である。

# セメント試験成績表



平成 16 年 5 月 度

太平洋セメント株式会社

品質	種類	普通ポルトランドセメント JIS R 5210				早強ポルトランドセメント JIS R 5210				高炉セメント B 種 JIS R 5211			
		JIS 規格値	試験成績			JIS 規格値	試験成績			JIS 規格値	試験成績		
			平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大値 (最小値)
密度	g/cm <sup>3</sup>	-	3.16	-	-	-	3.14	-	-	-	3.04	-	-
比表面積	cm <sup>2</sup> /g	2500以上	3260	85	-	3300以上	4520	94	-	3000以上	3700	95	-
凝 結	水量 %	-	27.8	-	-	-	30.5	-	-	-	29.4	-	-
	始発 h-min	60min以上	2-18	-	(1-50)	45min以上	1-47	-	(1-30)	60min以上	2-56	-	(2-25)
	終結 h-min	10h以下	3-24	-	4-05	10h以下	2-40	-	3-25	10h以下	4-15	-	4-55
安定性	パット法	良	良	-	-	良	良	-	-	良	良	-	-
圧縮強さ N/mm <sup>2</sup>	1 d	-	-	-	-	10.0以上	27.3	1.68	-	-	-	-	-
	3 d	12.5以上	29.9	1.72	-	20.0以上	47.5	1.86	-	10.0以上	21.2	1.28	-
	7 d	22.5以上	45.2	1.85	-	32.5以上	57.0	1.93	-	17.5以上	35.0	1.87	-
	28d	42.5以上	62.3	2.01	-	47.5以上	67.8	2.01	-	42.5以上	62.1	1.96	-
水和熱 J/g	7 d	-	325	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	28d	-	374	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
化学成分 %	酸化マグネシウム	5.0以下	1.40	-	2.48	5.0以下	1.35	-	2.46	6.0以下	3.08	-	3.60
	三酸化硫黄	3.0以下	2.11	-	2.42	3.5以下	2.85	-	3.27	4.0以下	1.97	-	2.30
	強熱減量	3.0以下	1.99	-	2.55	3.0以下	0.97	-	1.47	3.0以下	1.24	-	2.29
	全アルカリ	0.75以下	0.50	-	0.60	0.75以下	0.42	-	0.56	-	-	-	-
	塩化物イオン	0.035以下	0.010	-	0.018	0.02以下	0.006	-	0.012	-	0.006	-	-

## 備 考

試験方法はJIS R 5201、JIS R 5202及びJIS R 5203による。  
28 d 圧縮強さ及び28 d 水和熱は前月度の値を示す。

全アルカリの最大値のうち直近6ヶ月の最大の値  
普通ポルトランドセメント 0.61 %  
早強ポルトランドセメント 0.56 %

高炉セメント B 種  
ベースセメントの全アルカリ 0.50 %  
高炉スラグ混入量 40~45 %

お問い合わせその他のご連絡先

太平洋セメント株式会社 中部支店 技術部

☎460-0008 名古屋市中央区栄2-1-1

日土地名古屋ビル 14F

☎ 052-220-3153

検印欄		
生産部長	責任者	担当者
		

# 骨材試験成績表

平成 16 年 5 月度

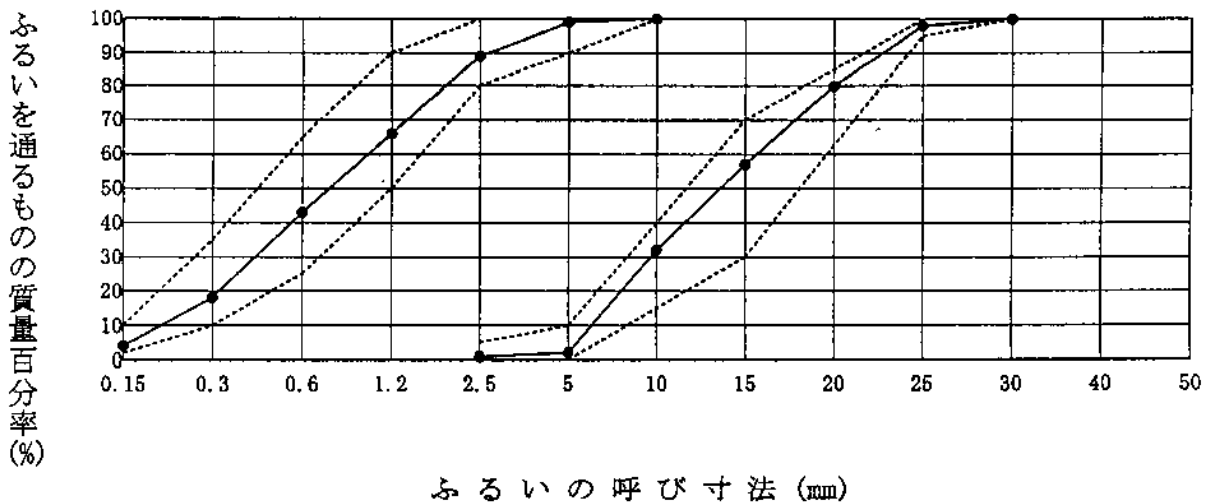
名東生コン株式会社 本社工場

産地	細骨材 1	瀬戸市上陣屋 山砂	粗骨材 1	瀬戸市上陣屋 砂利 25mm
	細骨材 2		粗骨材 2	

備考：

試験項目	種類	細骨材 1	細骨材 2	粗骨材 1	粗骨材 2	ふるい分け試験(通過率)						
						ふるいの呼び寸法 (mm)	細骨材 1	細骨材 2	合成細骨材	粗骨材 1	粗骨材 2	合成粗骨材
最大寸法 (mm)		5		25								
絶乾密度 (g/cm <sup>3</sup> )		2.51		2.57								
表乾密度 (g/cm <sup>3</sup> )		2.55		2.60		50						
軟らかい石片 (%)		—		0.0		40						
実積率 (%)		—		62.6		30				100		
吸水率 (%)		1.48		1.22		25				98		
微粒分量 (%)		1.8		0.2		20				80		
有機不純物		淡い		—		15				57		
粘土塊量 (%)		0.2		0.1		10	100			32		
塩化物量 (NaCl) (%)		0.001		—		5	99			2		
比重1.95に浮くもの (%)		0.00		0.12		2.5	89			1		
安定性 (%)		1.7		4.4		1.2	66					
すりへり (%)		—		23.6		0.6	43					
アル骨 (モルタル <sup>+</sup> -法)		区分A		区分A		0.3	18					
						0.15	4					
						粗粒率	2.81			6.85		

粒度曲線



名東生コン株式会社 殿

株式会社フローリック



種類 AE減水剤 標準形 I種

商品名 フローリック SV

1. コンクリート試験結果

項目	JIS A 6204 による規定値	試験値			
		スランブ 8cm	スランブ18cm		
フレッシュ コンクリート	減水率 %	10以上	15	15	
	ブリーディング量の比 %	70以下	48	51	
	凝結時間の差 min	始発	-60～+90	+65	+70
		終結	-60～+90	+65	+65
	経時変化量	スランブ cm	-	-	-
空気量 %		-	-	-	
硬化 コンクリート	圧縮強度比 %	材齢 3日	115以上	137	139
		材齢 7日	110以上	128	130
		材齢 28日	110以上	120	119
	長さ変化比 %	120以下	100	100	
	凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)	80以上	97	-	

- 備考 1. 1 m<sup>3</sup> 当たりの化学混和剤の使用量 スランブ 8cm 3.00kg/m<sup>3</sup> スランブ 18cm 3.20 kg/m<sup>3</sup>  
 2. フレッシュコンクリートの試験は3か月ごとに年4回実施し、この表に表示されている試験値は、平成16年3月の試験結果である。  
 3. 硬化コンクリートの試験は、年1回実施し、この表に表示されている試験値は、平成15年9月の試験結果である。

2. 塩化物イオン (Cl<sup>-</sup>) 量及び全アルカリ量

項目	化学混和剤 中の含有量	1m <sup>3</sup> 当たりの化学 混和剤の使用量	JIS A 6204による 規定値	試験値
塩化物イオン(Cl <sup>-</sup> )量	0.06 %	3.20 kg/m <sup>3</sup>	0.02kg/m <sup>3</sup> 以下	0.00 kg/m <sup>3</sup>
全アルカリ量	0.7 %	3.20 kg/m <sup>3</sup>	0.30kg/m <sup>3</sup> 以下	0.02 kg/m <sup>3</sup>

- 備考 1. 1 m<sup>3</sup> 当たりの化学混和剤の使用量及び試験値は、スランブ 8 cm 及びスランブ 18 cm のコンクリートに対する値のうち、いずれか大きい方の値を示す。  
 2. 試験は3か月ごとに年4回実施し、この表に表示されている試験値は、平成16年3月の試験結果である。

3. その他の項目

項目	規格値	試験値
密度 (20 °C) (g/cm <sup>3</sup> )	1.08～1.12	1.10

- 備考 この表に表示されている試験値は、平成16年3月の試験結果である。





受付日 2003年 3月 24日

No. NC-14242-2



# 試験成績書

名東生コン 株式会社 殿

試験品名：レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水  
 [水の区分] 回収水(上澄水)  
 [採取場所] 工場内

試験項目： 1. 懸濁物質の量 4. モルタルの圧縮強さの比  
 2. 塩化物イオン (Cl<sup>-</sup>) 量  
 3. セメントの凝結時間の差

試験方法： JIS A 5308 レディーミクストコンクリート 附属書9 (規定) による。

試験日： 2003年 3月 24日 ~ 2003年 4月 23日

試験項目及び試験結果：

試験項目	規格値	試験結果	
懸濁物質の量 (g/l)	.....	0.0	
塩化物イオン (Cl <sup>-</sup> ) 量 (ppm) (分析方法：電位差滴定法)	200以下	17.2	
セメントの凝結時間の差 (分)	始発	30以内	1
	終結	60以内	2
モルタルの圧縮強さの比 (%) ( JIS R 5201(A法) )	7日	90以上	98
	28日	90以上	102

- (注)： 1. 上記試験品は、試験申込者により 2003年 3月24日に試験実施場所へ持ち込まれたものである。  
 2. 試験品内容等については、試験申込者提出の試験申込書に基づき表記したものである。

試験の結果は、上記のとおりであることを証明します。

2003年 4月 24日

愛知県西春日井郡西春町大字沖村字沖浦39  
 財団法人 日本品質保証機構  
 中部試験セン  
 所 長 山口



技術管理者 西谷俊治

この試験成績書の転載、一部分の複製をするときは事前に当機構の承認を受けて下さい。





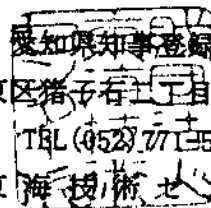
東海技物第 03710339-002 号  
平成 16 年 3 月 29 日

副

# 報 告 書

揖斐川工業 株式会社 様

計量証明事業 愛知県知事登録第262号  
名古屋市名東区猪子石二丁目710番地  
〒465-0021 TEL (052) 7713516(代)  
財団法人 東海技術センター  
理事長 小川 進



貴依頼による骨材の試験結果を別紙のとおり報告します。

受付月日	平成 15 年 9 月 17 日
骨材名称	細骨材
試験項目	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法)



No. 03710339-002

採取場所 瀬戸市上陣屋地内

採取者名 株式会社 小野田愛知鉱業所

採取年月日 平成 15 年 9 月 17 日

骨材名称 細骨材

### 1. 試験方法

J I S A 1 1 4 6

### 2. 試験条件

使用したセメントのアルカリ含有量

$\text{Na}_2\text{O}$  : 0.31 %

$\text{K}_2\text{O}$  : 0.54 %

$\text{R}_2\text{O}$  : 0.67 %

但し、 $\text{R}_2\text{O} (\text{Na}_2\text{O}) = \text{Na}_2\text{O} + \text{K}_2\text{O} \times 0.658$

### 3. 外観観察

材令 8 週間目に微量のゲルがみられた。

材令 3 か月目に少量～中量のゲルがみられた。

材令 6 か月目に中量のゲルがみられた。

### 4. 試験結果

#### 4.1 期間

平成 15 年 9 月 26 日 から

平成 16 年 3 月 26 日 まで

#### 4.2 結果

6 か月後の膨張率 : 0.018 %

供試体 (モルタルバー) の膨張率を別紙に示す。

### 5. 判定

アルカリシリカ反応性の判定	無 害
---------------	-----

合格

—判定基準—

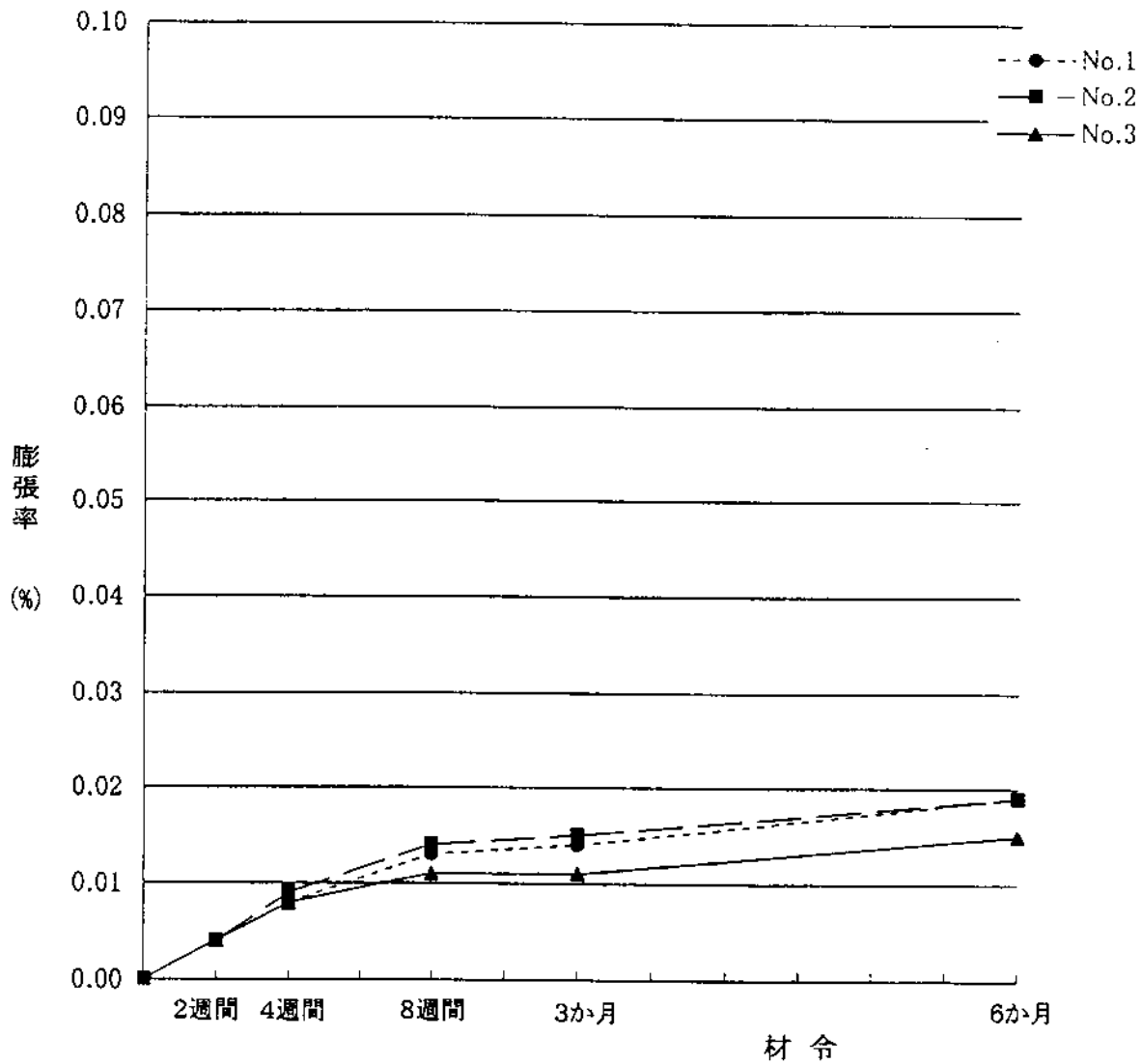
無 害 : 6 か月 (182 日) における平均膨張率が、0.1%より小さい場合

無害でない : 6 か月 (182 日) における平均膨張率が、0.1%以上の場合

注) 採取場所・採取者名・採取年月日・骨材名称は、ご依頼のお申し出により記入しました。

## 試験結果 (膨張率 %)

	2週間	4週間	8週間	3か月	6か月
No. 1	0.004	0.008	0.013	0.014	0.019
No. 2	0.004	0.009	0.014	0.015	0.019
No. 3	0.004	0.008	0.011	0.011	0.015
平均値	0.004	0.008	0.013	0.013	0.018





東海技物第 03710339-001 号

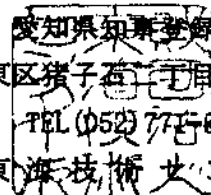
平成 16 年 3 月 29 日

副

# 報 告 書

揖斐川工業 株式会社 様

計量証明事業 愛知県知事登録第262号  
 名古屋市名東区猪子石三丁目710番地  
 〒465-0021 TEL (052) 775-6161(代)  
 財団法人 東海技術センター  
 理事長 小川 進



貴依頼による骨材の試験結果を別紙のとおり報告します。

受付月日	平成 15 年 9 月 17 日
骨材名称	粗骨材
試験項目	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法)



採取場所 瀬戸市上陣屋地内

採取者名 株式会社 小野田愛知鉱業所

採取年月日 平成 15 年 9 月 17 日

骨材名称 粗骨材

1. 試験方法

J I S A 1 1 4 6

2. 試験条件

使用したセメントのアルカリ含有量

Na<sub>2</sub>O : 0.31 %

K<sub>2</sub>O : 0.54 %

R<sub>2</sub>O : 0.67 %

但し、R<sub>2</sub>O (Na<sub>2</sub>O) = Na<sub>2</sub>O + K<sub>2</sub>O × 0.658

3. 外観観察

材令 8 週間目に微量のゲルがみられた。

材令 3 か月目に少量～中量のゲルがみられた。

材令 6 か月目に中量のゲルがみられた。

4. 試験結果

4.1 期間

平成 15 年 9 月 26 日 から

平成 16 年 3 月 26 日 まで

4.2 結果

6 か月後の膨張率 : 0.022 %

供試体 (モルタルバー) の膨張率を別紙に示す。

5. 判定

アルカリシリカ反応性の判定	無 害
---------------	-----

—判定基準—

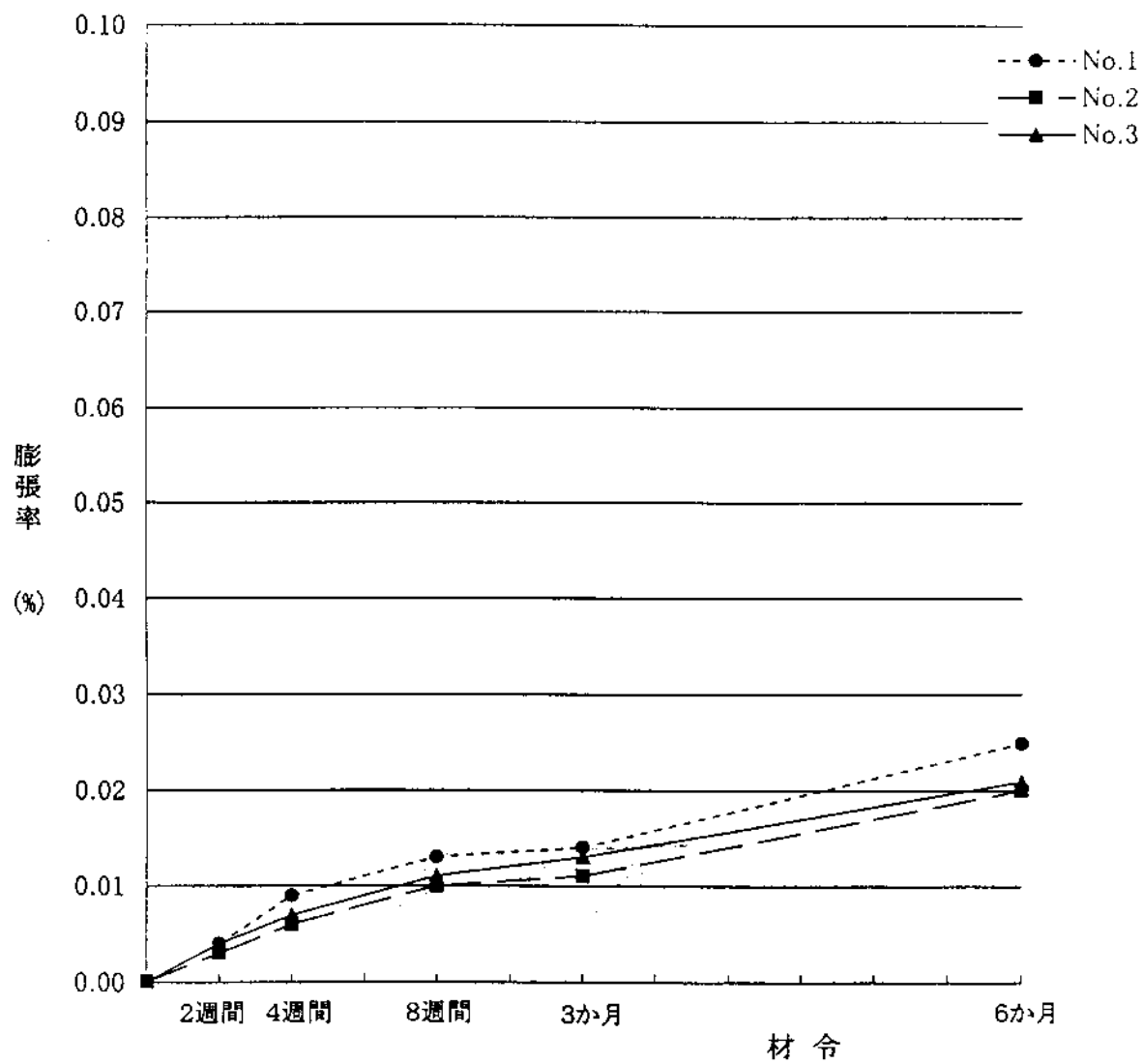
無 害 : 6 か月 (182日) における平均膨張率が、0.1%より小さい場合

無害でない : 6 か月 (182日) における平均膨張率が、0.1%以上の場合

注) 採取場所・採取者名・採取年月日・骨材名称は、ご依頼のお申し出により記入しました。

## 試験結果（膨張率 %）

	2週間	4週間	8週間	3か月	6か月
No. 1	0.004	0.009	0.013	0.014	0.025
No. 2	0.003	0.006	0.010	0.011	0.020
No. 3	0.004	0.007	0.011	0.013	0.021
平均値	0.004	0.007	0.011	0.013	0.022





登録番号 20300690

有効期限 2007年 3月31日

# 登録証

## コンクリート主任技士

本籍 岐阜県

氏名 河合逸希

昭和 34 年 1 月 6 日 生

合格番号 94245208

本協会コンクリート技士制度規則にもとづき上記のとおり

コンクリート主任技士として登録したことを証します

2003 年 3 月 31 日

社団法人 日本コンクリート



会長  
**森田**



第04099号

# 品質管理監査合格証

## 名東生コン株式会社 本社工場殿

貴工場は愛知県生コンクリート品質管理  
監査会議が平成15年度に実施した立入監  
査の結果全国統一品質管理監査基準に適合  
しているものと判定しここに合格証を交付  
する

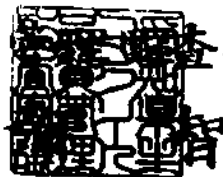
記

有効期限 自 平成16年4月1日  
至 平成17年3月31日

平成16年3月9日

愛知県生コンクリート品質管理監査会議

議長 吉田







# 日本工業規格表示認定書

認定番号  
472032

名東生コン株式会社 殿

工業標準化法第19条第1項の規定により日本工業規格の表示について  
下記のように認定する

(認定) 昭和47年7月19日

(再交付) 平成10年3月 8日

通商産業大臣 堀内光



記

認定工場又は  
事業場の名称 名東生コン株式会社 本社工場  
所在地 愛知県名古屋市守山区森孝東二丁目410番地  
表示認定品目 レディーミクストコンクリート

日本工業規格の番号 名称 等級又は種類

JIS A 5308 レディーミクストコンクリート 普通コンクリート  
・特殊コンクリート  
軽質コンクリート



平成 16 年 5 月 18 日

石黒建設株式会社 殿

日本工業規格表示認定工場 No. 472032

名東生コン株式会社 本社工場

配合計画者名 河合 逸希

工 事 名 称	東亜システム (株) 社屋新築工事
所 在 地	[REDACTED]
納 入 予 定 時 期	H16.05/20 - H16.10/30
本配合の適用期間	(T=0)4/13-10/9(営繕協会及びJASSE:普通セメント)
コンクリートの打込箇所	躯体コン

配 合 の 設 計 条 件

呼 び 方	コンクリートの種類による記号	呼 び 強 度	ス ラ ン プ	粗骨材の最大寸法による記号	セメントの種類による記号
	普通	30	18	25	N
指定事項(14)	軽量コンクリートの単位容積質量	-	kg/m <sup>3</sup>	空 気 量	-
	コンクリートの温度	-	℃	混 和 材 料 の 種 類	高性能AE減水剤
	呼び強度を保証する材齢	-	日	7%細骨材反応抑制対策の方法 (15)	△
	水セメント比の上限値	-	%	単位セメント量の下限值又は上限値	-
	単位水量の上限値	-	kg/m <sup>3</sup>	塩 化 物 含 有 量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下
	流動化後のスランプ増大量	-	cm		

使 用 材 料 (16)

セメント 生産者名	太平洋セメント (株)	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	3.16	Na2Oeq (%) (17)	0.60			
混和材 製品名	-	種 類	-	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	-			
骨 材 No	種 類	産地又は品名	ASR <sup>(18)</sup> による区分	粒の大きさの範囲 <sup>(19)</sup>	粗粒率又は実積率 <sup>(20)</sup>	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	吸水率 (%)	
細 骨 材 ①	砂	瀬戸	△ 試験方法	5mm以下	2.80	2.52	2.55	1.48
細 骨 材 ②	-	-	-	-	-	-	-	-
細 骨 材 ③	-	-	-	-	-	-	-	-
粗 骨 材 ①	砂利	瀬戸	A 試験方法	25mm~5mm	62.5	2.57	2.60	1.23
粗 骨 材 ②	-	-	-	-	-	-	-	-
粗 骨 材 ③	-	-	-	-	-	-	-	-

混和剤① 製品名	マテ/3000S	種 類	高性能AE減水剤 (1種)	細骨材の塩化物量	0.001%
混和剤② 製品名	-	種 類	-	塩化物量	-

水 の 区 分 上水道水以外の水(地下水): 回収水 (上澄水)

配 合 表 (kg/m<sup>3</sup>) (21)

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
337	-	165	809	-	-	952	-	-	2.696	-

水セメント比	49.0%	水結合材比 <sup>(22)</sup>	-	細骨材率	46.4%
--------	-------	-----------------------	---	------	-------

備 考 細骨材混合率(砂=100%) 粗骨材混合率(砂利=100%) JIS 該当品

注 (14) 呼び方欄以外に特に指定された場合に記入する。  
 (15) 第5表第1に示す記号を記入する。ただし、第5表1の区分Aの骨材を用いる場合は、記号Aを同様に記入する。  
 (16) 配合設計に用いた材料について記入する。  
 (17) 本レディーミクストセメントを使用した場合にだけ記入する。  
 (18) アルカリシリカ反応(ASR)による劣化を抑制するために試験方法を記入する。  
 (19) 細骨材に対しては、粒径又はスラング骨材では粒の大きさの範囲を、粗又は人工軽量骨材では最大寸法を記入する。粗骨材に対しては、粒径又はスラング骨材では粒の大きさの範囲を、粗骨材では粗骨材の最大寸法を記入する。  
 (20) 粗骨材に対しては、実積率の値を、粗骨材に対しては実積率の値を記入する。  
 (21) 人工軽量骨材の場合には、乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合には表5乾燥状態の質量で表す。  
 (22) 骨材スラング試験方法を配合設計に使用した場合にだけ記入する。

# 配合計算書

名東生コン株式会社 本社工場

No. 0410136716

平成 16 年 5 月 18 日

配合計画者名

河合 逸希

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 30	スランブ 18	粗骨材の最大寸法による記号 25	セメントの種類による記号 N	
指定事項	軽量コンクリートの単位容積質量	—	kg/m <sup>3</sup>	空気量	—	%
	コンクリートの温度	—	℃	混和材料の種類	高性能AE減水剤	
	呼び強度を保証する材齢	—	日	粗骨材反応抑制対策の方法	A	
	水セメント比の上限値	—	%	単位セメント量の下限值又は上限値	—	kg/m <sup>3</sup>
	単位水量の上限値	—	kg/m <sup>3</sup>	塩化物含有量	0.30	kg/m <sup>3</sup> 以下
流動化後のスラブ増大量	—	cm				

配合の基本の及び計算	呼び強度 (SL)	JIS A 5308による呼び強度の値		SL = 30
	標準偏差(σ)当工場基礎資料より	σ = 2.80 N/mm <sup>2</sup>	変動係数(V)	V = 7.6 %
	配合強度 (m)	(1)m=0.85SL-3σ (2)m=0.85SL/(1-3V/100) より (3)m SL-2.5σ (4)m=SL/(1-2.5V/100)		m = 37 N/mm <sup>2</sup>
	水セメント比 (w/c)	当工場算定式より m=-14.4+25.2×C/W		W/C= 49.0 %
	単位水量 (W)	当工場基礎資料より		W = 165 kg/m <sup>3</sup>
	単位セメント量 (C)	W/(w/c)		C = 337 kg/m <sup>3</sup>
	セメント容積 (Vc)	C/密度		Vc = 107 L/m <sup>3</sup>
	粗骨材容積	当工場基礎資料より		Vg = 366 L/m <sup>3</sup>
	単位粗骨材量	Vg×密度 = 366×2.60		G = 952 kg/m <sup>3</sup>
	粗骨材の質量 (G1)	G×比率 952×100/100		G1 = 952 kg/m <sup>3</sup>
	(質量比) (G2)			G2 = kg/m <sup>3</sup>
	(G3)			G3 = kg/m <sup>3</sup>
	空気量 (A)	A/100×1000L		A = 45 L/m <sup>3</sup>
	細骨材の容積 (Vs)	1000-(W+Vc+Vg+A)		Vs = 317 L/m <sup>3</sup>
	単位細骨材量 (S)	Vs×密度 = 317×2.55		S = 809 kg/m <sup>3</sup>
	細骨材の質量 (S1)	S×比率 809×100/100		S1 = 809 kg/m <sup>3</sup>
	(質量比) (S2)			S2 = kg/m <sup>3</sup>
	(S3)			S3 = kg/m <sup>3</sup>
	細骨材率 (S/a)	Vs/(Vs+Vg)×100		S/a= 46.4 %
	単位混和剤量 (AD)	セメント質量の 0.80%		AD = 2.696 kg/m <sup>3</sup>

配合表	セメント	337	水	165	細骨材①	809	細骨材②	—	細骨材③	—	粗骨材①	952	粗骨材②	—	粗骨材③	—	混和剤①	2.696	混和剤②	—
	水セメント比	49.0%		水結合材比		—		—		—		細骨材率		46.4%		—		—		

備考 細骨材混合率(砂 100%) 粗骨材混合率(砂利 100%) JIS 該当品

名東生コン (株)

御中

花王株

建材

東京：〒131-8501 東京都葛飾区新小岩 1-4-1

TEL. 03-5631-7811

大阪：〒550-0012 大阪市西区立売堀1-4-1

TEL. 06-6533-7434

種 類 高性能AE減水剤標準形 I種

商品名 マイテイ3000S

1. コンクリートの試験結果

項 目		JISA6204による規定値	試 験 値		
			スランプ 8 c m	スランプ 1 8 c m	
フレッシュ コンクリート	減 水 率 %	18 以上	19	19	
	ブリーディング量の比 %	60 以下	33	35	
	凝結時間の差 min	始 発	-30 ~ +120	+20	+20
		終 結	-30 ~ +120	+25	+25
	経時変化量	スランプ cm	6.0 以下	—	1.0
空気量 %		±1.5 以内	—	-0.1	
硬化 コンクリート	圧縮強度比 %	材 齢 3 日	135 以上	153	
		材 齢 7 日	125 以上	142	
		材 齢 28 日	115 以上	130	
	長 さ 変 化 比 %	110 以下	98	98	
	凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数%)	80 以上	—	98	

- 備考 1. 1 m<sup>3</sup>当たりの化学混和剤の使用量 スランプ 8cm 2.40 kg/m<sup>3</sup> , スランプ 18cm 2.56 kg/m<sup>3</sup>  
 2. フレッシュコンクリートの試験は、3か月毎に年4回実施し、この表に表示されている試験値は、平成 16 年 3 月の試験結果である。  
 3. 硬化コンクリートの試験は、年1回実施し、この表に表示されている試験値は、平成 16 年 3 月の試験結果である。

2. 塩化物イオン (Cl<sup>-</sup>) 量及び全アルカリ量

項 目	化学混和剤中の含有量	1m <sup>3</sup> 当たりの化学混和剤の使用量	JIS A 6204による規定値	試 験 値
塩化物イオン (Cl <sup>-</sup> ) 量	0.00 %	2.56 kg/m <sup>3</sup>	0.02 kg/m <sup>3</sup> 以下	0.00 kg/m <sup>3</sup>
全 アル カ リ 量	0.6 %	2.56 kg/m <sup>3</sup>	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下	0.02 kg/m <sup>3</sup>

- 備考 1. 1 m<sup>3</sup>当たりの化学混和剤の使用量及び試験値は、スランプ8cm及びスランプ18cmのコンクリートに対する値のうち、いずれか大きい方の値を示す。  
 2. 試験は3か月毎に年4回実施し、この表に表示されている試験値は、平成 16 年 3 月の試験結果である。

3. その他の項目

項 目	規 格 値	試 験 値
密度 (g/cm <sup>3</sup> , 20°C)	1.030 ~ 1.100	1.050

- 備考 1. この表に表示されている試験値は、平成 16 年 3 月の試験結果である。